

製品名: hCAP-H ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11922**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	83kDa

抗原情報

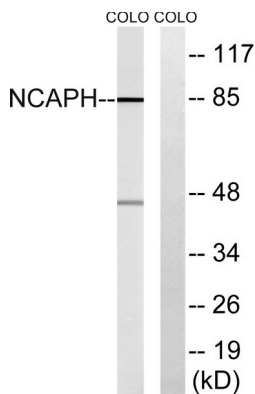
遺伝子名	NCAPH NCAPH; BRRN; BRRN1; CAPH; KIAA0074; Condensin complex subunit 2; Barren homolog
別名	protein 1; Chromosome-associated protein H; hCAP-H; Non-SMC condensin I complex subunit H; XCAP-H homolog
遺伝子 ID	23397.0
SwissProt ID	Q15003
免疫原	抗血清はヒト NCAPH 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

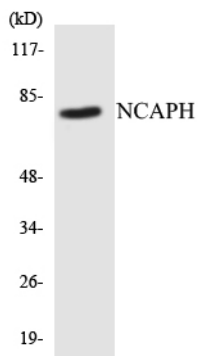
この遺伝子は、barr 遺伝子ファミリーのメンバーおよびコンデンシン複合体の調節サブユニットをコードする。この複合体は、間期クロマチンを凝縮染色体に変換するために必要である。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、染色体凝縮の初期段階を除き、有糸分裂期染色体と関連している。間期には、このタンパク質は明瞭な点状の核小体局在を示す。異なるタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2013年7月]、機能：間期クロマチンを有糸分裂期様凝縮染色体に変換するために必要な複合体であるコンデンシン複合体の調節サブユニット。コンデンシン複合体は、I型トポイソメラーゼの存在下では弛緩した DNA に正のスーパーコイルを導入し、II型トポイソメラーゼの存在下では切断された DNA を正のノット型に変換すると考えられる。、PTM：CDC2 によってリン酸化される。そのリン酸化は、NCAPD2 および NCAPG サブユニットのリン酸化と同様に、コンデンシン複合体を活性化し、染色体凝縮に必要である。、類似性：CND2 (コンデンシンサブユニット 2) ファミリーに属する。、細胞内局在：間期細胞では、コンデンシン複合体の大部分は細胞質に存在し、少数はクロマチンに会合している。しかし、複合体の一部は間期細胞において染色体フォーカスに会合したままである。有糸分裂中は、コンデンシン複合体の大部分はクロマチンに会合している。前期の開始時に、複合体の調節サブユニットが CDC2 によってリン酸化され、コンデンシンが染色体腕に会合し、染色体凝縮が起こる。染色体からの解離は、終期後期に観察される。、サブユニット：コンデンシン複合体の構成要素で、SMC2 および SMC4 ヘテロダイマー、そして複合体を制御すると考えられる 3つの非 SMC サブユニット (NCAPH/BRRN1、NCAPD2/CAPD2、NCAPG) を含む。、組織特異性：低レベルで広く発現している。増殖細胞で発現する。、

研究分野

画像データ



COLO 細胞ライセートの NCAPH 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



NCAPH 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

hCAP-H ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析

